

雑草・病虫害防除は早めに

田植え以降、表層剥離や強風による代枯れ等で苦慮されていることと存じますが、5月下旬から気温が上昇し、様相が回復してきた圃場が多く見受けられます。気温の上昇とともに雑草の発生も活発化してきますので、早めの除草剤散布を心がけてください。また、初中期一発剤の使用後に雑草の残った場合は、以下の薬剤で対応してください。

なお、懸念されたイネミギワバエ（イネヒメハモグリバエ）については、産卵痕や食害の発生は見られておりません。

1. 中・後期除草剤の雑草防除

薬剤名		成分数	使用時期	ル [*] エ葉令	適用雑草
ヒエ剤	クリンチャー-1キロ粒剤	1	田植え後7日～ 収穫30日前	4.0葉	ノビエ
	クリンチャー-EW		田植え後20日～ 収穫30日前	6.0葉	ノビエ 展着剤加用 10a当り100ml/水25～100ℓ
ヒエ・ 広葉剤	レプラス1キロ粒剤	4	田植え後14日～ 収穫60日前	4.0葉	オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、ホタルイ、マツバイ
	ワイドショット1キロ粒剤	2	田植え後15日～ 収穫45日前	4.0葉	オモダカ、クログワイ、セリ、マツバイ、ホタルイ
	クリンチャー-バスME液剤	2	田植え後15日～ 収穫50日前	5.0葉	ノビエ、広葉雑草 10a当り1,000ml/水70～100ℓ
	アトトリ1キロ粒剤	1	田植え後20日～ 収穫45日前	4.0葉	ノビエ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ
広葉	ハサグラン液剤	1	田植え後15日～ 収穫50日前	広葉雑草 落水又はごく浅水で使用 10a当り500ml/水70～100ℓ	

2. 病虫害防除

一部圃場でイネミズゾウムシの発生が見られております。畦畔沿いを主体に確認のうえ、発生の多い圃場ではつぎの薬剤で防除に努めてください。

薬剤名		成分	使用量/10a
トレボン	粒剤	1	2.0 kg
	粉剤DL		3.0 kg